

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：鉄道計画（1）	
日付：11月2日（日）曜日、セッション時間：9:00～10:30	
司会者名（所属）：土井勉（神戸国際大学）	
討議内容	<p>セッション全体：</p> <p>鉄道の「混雑」について，182，183 は夜の混雑時における利用者の行動と，それに関する不効用に関するモデル化を志向した研究であり，184 は駅施設における移動抵抗を混雑という概念で施設やサービスを評価しようと志向した研究であった．</p> <p>各利用者は個人レベルでの効用最大化を意図して，時間調整などの行動を行っているのが現状であろう．それに対して，いかなるサービスの改善・提供を行うことで，利用者に対する効用を大きく（あるいは不効用を小さく）することができるのか，という政策・施策イメージとの関係が明確になると，さらに研究の意義が明確になると考えられる．</p> <p>会場と発表者から，各発表に対して多くの意見・コメントがあったが，全体を通して上記のような議論が印象に残った．</p>
	<p>（183）森田泰智（所属）：鉄道建設・運輸施設整備支援機構</p> <p>夜間ピーク時の混雑解消を問題意識として，鉄道利用者の交通行動を調査している．</p> <p>22 時以降の混雑は利用者数に対して列車便数が急減しているからであり，列車を増発することで問題解決にならないのかという意見に対しては，鉄道事業者は，今以上の増発は困難であるとの意向であるとの回答があった．</p> <p>また，人口減少社会における望ましい鉄道サービスのあり方についての意見あり．</p>
	<p>（182）山崎翔平（所属）：東京大学大学院</p> <p>夜間混雑時の不効用関数についてのモデル化に関する研究．</p> <p>朝ピークと夜間ピークの対比など．</p> <p>季節により（特に，冬季）不効用は異なるので，そうした視点からの研究が望ましいとの意見や，不効用を低下させる具体策についての意見やコメントがあった．</p>
	<p>（184）山下良久（所属）：企画開発</p> <p>首都圏における駅構内や通路や乗換サービスなどが駅利用者（日常的利用者と非日常的利用者に分けて考察）に与える心理構造モデルを提示．</p> <p>ケースで取り上げた駅の採択に関する質問．非日常的利用者に対しては情報提供などのサービスが望まれるが，日常的利用者へのサービス向上策のイメージについては，さらに議論を重ねることが望まれるなど意見があった．</p>